

つながり

「つながり」は、医療や介護に従事する皆様が、多職種に向けて自らの情報を発信し、互いに理解を深め、顔の見える関係を築くための連携ツールとして、季節の節目ごとに発行しております。

令和4(2022)年 6月23日 発行
発行元
秋田市在宅医療・介護連携センター
TEL 018-827-3636
E-mail renkei-center@acma.or.jp

職種別特集 (第6弾) 【リハビリテーション専門職】

リハビリテーション専門職の3職種(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)を代表し、理学療法士のジョーンズ佳子氏にお話を伺いました。



ジョーンズ 佳子氏

秋田リハビリテーション学院 教員/
秋田県リハビリテーション専門職協議会 中央ブロック長
趣味:ドライブ、シナモンロールの食べ比べ、ウォーキング
座右の銘:どうせやるなら上機嫌で!

「リハビリ専門職の仕事を紹介します」

～生活のためのリハビリを～

今回のインタビュアー

照井 寿和氏

介護老人保健施設かみの里 支援相談員/
秋田県中央地区介護支援専門員協会 会員
趣味:サッカー、日本酒
座右の銘:継続は力なり



リハビリ専門職が定期的に関わって評価すること、目標や支援内容を皆で共有し継続して取り組むこと、これが良い結果につながります。ケアマネジャーの照井寿和氏が、理学療法士のジョーンズ佳子氏からお話を伺いました。

リハビリテーションとは

照井氏 私は介護老人保健施設に勤務しているため日々リハビリに接している身ですが、今日は改めてお話を伺えればと思います。まずは、リハビリテーションとは何かということから教えてください。

ジョーンズ氏 リハビリテーションの考え方は範囲がとても広いので、今日は私の専門である理学療法についてを中心に述べさせていただきます。理学療法は医師の指示の下、身体・精神状態の評価、機能訓練などによる身体機能の維持改善、精神面への支援、補助具や福祉用具導入の助言など自宅での生活環境調整、ご家族への介助方法の指導などを行います。リハビリテーションという言葉は障害を持った方が可能な限り元の社会生活を取り戻すことを意味するので、機能訓練を行う必要もありますが、それだけではありません。それ以上に生活の中で積極的に活動していただくことが重要と考えられています。リハビリテーション専門職と呼ばれているのは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の3職種(※1)で、医療機関、介護施設、福祉施設、教育機関、一般企業、プロスポーツ団体などで働いています。

照井氏 対象となるのはどのような方でしょうか。

ジョーンズ氏 病気、外傷、加齢などによって運動機能が低下した方です。最近では高齢者の介護予防の分野に関わることも増えてきました。

照井氏 スポーツの分野から介護予防まで、本当に幅広い場で活躍されていますね。それでは支援の流れを教えてください。

ジョーンズ氏 患者さんの身体の動きを評価し目標を立ててから開始します。患者さんの状態は日々変化するので、治療を行いながらその都度評価、目標の再設定を繰り返すこととなります。身体の状態と患者さんが目指す生活がかけ離れていることもあるので、お気持ちを聞きながらすり合わせていきます。

自宅でのリハビリと多職種連携

照井氏 定期的に評価してプランを作っていくところはケアマネも同じです。次に、自宅にいる方が受けられるリハビリサービスについて教えてください。

ジョーンズ氏 医療機関で行う外来リハビリ、介護施設で行う通所リハビリのほか、リハビリ専門職が自宅訪問し

て行う訪問リハビリのサービスがあります。自宅で行う場合も、特別な器具を必要とする場合以外は医療機関と同じようなことができます。また、自宅からトイレまで歩いてもらい弊害はないかなど、実際の生活の場で日常動作を確認しながら機能訓練ができたり、使用している福祉用具の調整ができる良さがあります。身体機能の維持向上だけでなく、例えば人工呼吸器管理下でも車いすに移乗し散歩に出かけたり、神経難病の方へのコミュニケーション手段を工夫したりするなど、生活の質の向上を目指して様々な支援も行っていきます。

照井氏 患者さんの生活の中で、リハビリ専門職が関わる時間はほんの一部分だと思えます。何か工夫していることはありますか。

ジョーンズ氏 リハビリ専門職が週に1~2回関わるだけでは、思うようには改善しません。掴まって立っていられる方であればズボンの上げ下ろしの時に立ってもらう、またベッドから車いすへひとりでも移乗できる方であれば手を貸さずに見守るなど、患者さんができることを関わっている方々に具体的に伝え、介助の協力をお願いしています。以前私が訪問リハビリで関わっていた方ですが、脳梗塞の後遺症に

よってベッド上で過ごされていた方が、約5年かけて軽介助で杖歩行できるまでに回復したケースもありました。リハビリ専門職が定期的に関わって評価すること、目標や支援内容を皆で共有し継続して取り組むこと、これが良い結果につながったのではないかと思います。

照井氏 チームでの取り組みが、本当に大きく影響しますね。

ジョーンズ氏 複数の事業所が関わると情報の共有に難しさもでてきますが、それぞれが自分から働きかける意識を持つことで連携しやすくなると感じています。

生活のためのリハビリ

照井氏 自宅であれば患者さんの生活に合わせた支援がしやすいかもしれませんが、入院中はどうかでしょうか。

ジョーンズ氏 入院中は患者さんの自宅での様子が十分に見えず、退院後の生活目標が立てにくい場合もあります。家族や病気の情報は院内にあるデータでわかりますが、家屋状況の詳細が分からないことも意外に多いため、自宅は戸建てか集合住宅か、玄関の段差は何センチぐらいかなどの情報を、ご家族や関わっている他の専門職から教えてもらえると助かります。病院の中でできていても、家に帰ると環

境が違うからできない、とならないよう準備するためです。

照井氏 そもそも退院後の生活のためにリハビリをする訳ですからね。入院中に関わっている専門職も退院後に関わる専門職も、積極的に情報共有したいところです。

ジョーンズ氏 情報をもらうだけでなく、リハビリの内容や予後予測を次に関わる専門職に伝達することも大切で、私たちリハビリ専門職からの発信も強化したいと考えています。その方法の一つとして、リハビリ内容などが記入できる「わたしのリハビリ手帳(※2)」というものを作りました。この手帳は、自宅で患者さんに関わっているリハビリ専門職と、病院のリハビリ専門職との情報伝達もできるようになっています。

早めに気づく、つなげる

照井氏 転倒を繰り返し歩けなくなつてから施設に来る方が多く、早くからリハビリをしていれば悪化が防げたのでは、と感じることがあります。リハビリ専門職に初めて相談する場合、タイミングが目安があれば教えてください。

ジョーンズ氏 特に自宅で生活されている方の場合、ケアマネやご家族など、誰かが気づいて働きかけなければ

始められません。脳梗塞や骨折などによる大幅な機能低下が見られる時以外でも、疲れやすい、以前は楽しんでいたことをやらなくなった、買い物に行けなくなったなど、身辺動作に困難さがみられるようになってきたら支援の見直しが必要なのかもしれません。

照井氏 なるほど、早めに気づくところからですね。どのように相談を持ちかければ良いですか。

ジョーンズ氏 サービス利用が前提でなくても良いので、顔が繋がっていて声をかけやすいリハビリ専門職がいれば是非相談してみてください。「こういう人は、訪問リハビリの対象?」「こういう場合、どうしたら良いと思う?」などとお尋ねいただければ、答えが見つかるかもしれません。見つからなくても、一緒に考えます。リハビリ専門職の知り合いがない場合は、秋田県リハビリテーション専門職協議会や理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会にご連絡いただければ相談に乗ります。リハビリのサービスに触れたことがない方々もいると思いますので、私たちリハビリ専門職も積極的にPRしていかなければいけないと感じています。今回は良い機会になりました。ありがとうございました。

照井氏 今日はありがとうございました。

※1 リハビリテーション専門職の3職種

理学療法士：運動機能の維持・改善を目的に運動、温熱、電気、水、光線などの物理的手段を用いて支援する専門職です。

作業療法士：食事や家事、対人交流などの生活行為の改善を図り、その人らしい生活の構築を支援する専門職です。

言語聴覚士：ことばによるコミュニケーションに問題がある方に対し、解決に向けて支援する専門職です。また、摂食・嚥下の問題にも専門的に対応しています。

※2 わたしのリハビリ手帳

秋田県理学療法士会が作成しました。他の専門職、一般市民の方々にもご理解いただけるように用語の説明なども綴じ込んでいます。関係者間でのリハビリ情報の伝達、患者さん自身の記録に使ってください。希望される方は、関わったリハビリ専門職に声をかけていただくか、理学療法士会にお問い合わせください。

秋田県理学療法士会 <https://www.ptakita.org/>



インタビューの感想

やはり、餅は餅屋に頼むべきだなと感じました。困ったら仲間を頼るってことも大事ですね!



私たちリハビリ専門職の仕事を知っていただく良い機会になりました。在宅リハビリについて、お話できて楽しかったです。

《連携センターから》

連携センターのホームページに、多職種への情報提供の場として「掲示板」コーナーを開設しております。発信したい医療・介護連携に関する情報がありましたら、センター職員までお声掛けください。

連携センター(827-3636)



秋田市在宅医療・介護連携センター

〈受付時間〉月～金(祝日を除く)午前9時～午後5時
〒010-0976 秋田市八橋南一丁目8番5号(秋田市医師会館内)
TEL:018-827-3636 FAX:018-827-3614
E-mail renkei-center@acma.or.jp



編集後記

この職種別特集も今回で6回目。取材の後今までの「つながり 職種別特集」を読み返してみました。医療・介護が多職種連携によって成り立っていることを、改めて感じさせられました。熊谷

